令和６年度第１回三浦市総合教育会議会議録

○日　　時　令和６年 11 月 21 日（木）　午後３時 30 分～午後４時 26 分

○場　　所　三浦市民交流センター　研修室

○次　　第

１　開　　会
２　市長あいさつ
３　議　　事
　⑴　みうらっ子学力アッププロジェクトについて
　⑵　三浦市学校給食共同調理場更新に向けた考え方について
４　その他
５　閉　　会

○出席者（６名）

市　　長	吉田英男
教育長	及川圭介
教育長職務代理	廣瀬牧実
教育委員	石渡博幸
教育委員	村山智洋
教育委員	川名大介

○説明のために出席した職員

教育部長	鈴木基史	教育総務課長	浦西伸一
学校教育課長	増田格人	学校給食課長	武田健二
学校給食課特任主査	増井直樹		

○関係職員

政策部長　矢尾板昌克

○事務局出席者

教育総務課教育総務グループリーダー	阿井俊弥	教育総務課主事	吉田かおり

○傍　　聴（６名）

◇　午後３時30分　開会　◇

○鈴木教育部長　　ただいまより、令和６年度第１回三浦市総合教育会議を開会いたします。

私は教育部長の鈴木でございます。本日の会議の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は教育委員会事務局の職員のほかに、関係職員としまして政策部長が出席しておりますので、併せてよろしくお願いいたします。

本会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の４第６項により、原則公開となりますので、御承知おきください。本日の会議開催にあたり傍聴希望者がおられますので入室の許可をいただくようお願いします。

（傍聴希望者がおり議長（市長）に許可を受け傍聴者が入室）

○鈴木教育部長　　報道機関より写真撮影の申出がありましたので、許可をいただくようお願いします。

（報道機関が議長（市長）に許可を受け撮影）

○鈴木教育部長　　改めまして、会議の主催者であります吉田市長から御挨拶をいただきます。

吉田市長お願いいたします。

○吉田市長　　皆さんこんにちは。令和６年度第１回三浦市総合教育会議を開催したいと思います。教育委員の皆さんは日頃から教育委員会とも情報連絡を取っていただいていると思いますし、教育委員会定例会でも様々な議論をしていただいていると思います。ここ数日間も学校訪問等をしていただいたとうかがっていますので、学校の実態ですとかぜひ御覧いただいて御指摘をいただければと思います。

私も時間のあるときに学校を周っているんですけども、施設の改善の要望が非常に多いということで自分の目で見ようと思いまして、まだすべてを周っていませんけど、全校を周ろうと思っています。教育委員会の職員と一緒に行くと学校側も気を使いますので、いきなり行って校長が不在でも自分で見てこようかなと思っております。

いずれにしても三浦市、小さな町ですけど、きめ細かな教育を目指して、これからも連携していただきたいと思いますので、ぜひ活発な御議論をよろしくお願いしたいと思います。

○鈴木教育部長　　ありがとうございました。

それでは議事の進行につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の４第１項の規定により、地方公共団体の長が総合教育会議を設け、また、同条第３項の規定により招集することとなっておりますので、市長に議長をお願いしたいと思います。

○吉田市長　　それでは議長を務めさせていただきます。本日の会議は議事事項２件になります。

早速ですが、議事事項の⑴みうらっ子学力アッププロジェクトについて事務局から説明をお願いします。

○増田学校教育課長　　それでは、資料に基づきまして学校教育課から説明いたします。

みうらっ子学力アッププロジェクトのまず１番、目的でありますがみうらっ子の自己肯定感を高め、自らの成長が実感できる学びづくりとあげております。そのためにみうらっ子の学力の向上と定着、教員の指導力の向上と改善（育成）、保護者の家庭学習（家庭での自主学習）への意識の向上を目指します。

２番、令和６年４月 18 日に三浦市学力調査及び全国学力・学習状況調査を行いまして、そこからわかったみうらっ子の学習状況を分析いたしました。そうしましたところ、応用的な問題を解く場面において課題がみられました。また、誤答や無回答が多いというような特徴もみられました。苦手なことの具体としては、複数の資料から読み取ること、文章・資料から根拠を探すこと、文章・資料をもとに考えを伝わるように述べたり、説明したり、証明したりすること、既習の様々な学習で得たことを複数動員して問題を解くことなどがあげられます。これを克服するためには授業においては基礎的なことに加え、応用的な問題にじっくり取り組む時間を授業でとれるようにすること。また、より一層児童・生徒及び教員が個々の課題をつかむことという改善が必要だと考えております。

３番です。これらの分析をもとに令和６年度学力アッププロジェクトの取組の仮設をここにあるように設定いたしました。①ICT 等を使ったより効果的、効率的な対話の場面の設定。②児童・生徒と教員それぞれが授業のねらいや個々の課題をつかみ、学習改善・授業改善をよりよく行うためのふりかえりを大事にした授業。③児童・生徒及び保護者への自主学習への啓発、支援。

４番、仮設実証のための手立てと成果です。先にお話ししました仮設を実証していくための手立てとしまして、まず①については授業の中で効率的に ICT 等を使って効率的、効果的な対話の場面を設定します。授業における情報交換を従来のような講義中心の授業や全体での挙手・発言制のものに加えて、ICT を活用することにより効率的、効果的なものにしていくことができるように各校において ICT 支援員や活用に長けている教員による研修を実施し、各種委員会での情報交換を実施いたしました。

②については、指導主事が学校訪問で指導する際に児童・生徒と教員が授業のねらいと個々の課題をつかみ、学習改善や授業改善をよりよく行うための、ふりかえりを大切にした授業ということで支援を行いました。指導主事の学校訪問、指導案件等において、授業の中で児童・生徒がよりよく資質・能力を身につけられるよう、次のことについて適宜指導・助言を行い、授業改善・学習改善に努めました。

授業においては育てるべき資質・能力とそこから考えられる由来を明確にして指導を行い、その成果を適切にみとることが重要であること、ねらいに対する児童・生徒の定着の度合いを、児童・生徒自身と教員が適切にみとり、次の授業につなげるためのふりかえりを効果的に行うことが重要である。

これに対して成果でございますが、まず、従来のような講義中心の授業に加えて、児童・生徒中心の授業。また、授業における ICT の効果的、効率的な活用を行う場面が増えたと認識し

ております。次に各校において授業におけるねらいを明確にし、ふりかえりを効果的に行う機会がさらに増えたと認識しております。

③の部分で児童・生徒及び保護者への自主学習への啓発、支援の部分ですが、手立てといたしまして、児童・生徒が学習に主体的に取り組めるよう、令和６年９月から三浦市学力調査の結果と連動し、一人一人の学習進度や理解度に合った問題を出題するAIドリルの利用開始をできるよう環境整備を行い、各校にて利用を推進させました。

また、家庭での自主学習に対する意識向上の取組として、リーフレット「お子さんの未来を拓く　自主学習のすすめ」を作成し、学校をとおして各家庭に配布をさせていただきました。

これらによる成果として、各校が実態に合わせてAIドリルの活用を進めているところです。また、持ち帰り学習についても、より良い方法を今模索しているところであります。また、中学校においては家庭学習を自学ノートとして、自ら課題を決めて行っていくような取組も見られております。

５番、令和７年度に向けた課題と対応です。①については一定程度進んでいるところでありますが、まだまだ学校差、個人差がありますので、各校や各協議会で研修や情報交換を続けてまいります。②につきましても、各校が実態に合わせて進めているところなので、引き続き支援を行いたいと考えております。③につきましては、学校においてのAIドリルの利用に加えて、家庭においても利用が進むよう支援を行います。また、従来の一律の宿題というものから自主学習に発展させていけるよう支援をしてまいります。

４ページは、全国学力・学習状況調査及び三浦市学力調査の実施と結果につきまして、別紙にその正答率等を載せております。まず前半４ページから三浦市の学力調査の小学校２年生、３年生、４年生。５ページにおいて小学校５年生、中学校１年生、２年生と載せております。５ページの下の方からは全国学力・学習状況調査でございます。数字が全国の正答率と三浦市の正答率の差となっておりますので御留意ください。小学校６年生と中学校３年生になります。

以上で⑴みうらっ子学力アッププロジェクトについて学校教育課からの説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○吉田市長　説明は終わりましたが、みうらっ子学力アッププロジェクトについて私からお話をさせていただきたいと思います。

今の全国学力・学習状況調査というのが行われているんですけど、その具体的な学校ごとの数字等は別として、三浦市全体として少しがんばらなくてはいけない数値になるというような報告を例年受けておりまして、これが良いか悪いかは別として市内の学力の向上をやはり図るべきではないかという思いから、一昨年くらいから学力アップについて諸所検討して欲しいという依頼を教育委員会にしています。

そして、昨年から具体的な方策としてこの学力調査を実施して、その結果を踏まえてそれぞれ教育委員会や学校でこのみうらっ子学力アッププロジェクトというのを立ち上げて、それについてどう対応していくのかというのを検討して欲しいということでこういった具体的な動きになっている経緯があります。プロセスは日頃から教育に関わっていらっしゃる皆様に検討していただければと思っていますけど、市長として、市として結果を求めるということを明言しておりますので、ぜひこのレベルアップを図っていただくということを命題として、この総合

教育会議でも議論をしようということで今回プロジェクトについて御報告をさせていただいているということになりますので、そこを御理解いただきたいと思っています。

学校側でもそれぞれ検討してくれて、学力向上どうしようかということで、具体的に教員の皆様でも検討してくれていると報告を聞いていますので、そういったことを踏まえて、ぜひ教育委員の皆さんにも御議論いただきたいと思っています。

この件について教育委員の皆さんはどうですか。

○廣瀬委員　昨日までの３日間学校訪問をしてくるなかで、このプロジェクトをやったことでそれぞれの学校が比較的共通した課題があって、読解力・語彙力の乏しさや書く力とかそういうところをだいぶ耳にしましたけれども、そういう課題がすごく明確になった。今までも少しは感じていたけれども、それが明確になったのかなっていうことを思いました。

また、それに対する各学校の取組がものすごく検討されていて、まだまだそれが始まったところですぐに結果が出ることではないとは思うんですけれども、いい改善策としていろんなことが出てくるかなと思います。各学校の取組でよかったこととかを三浦市の学校で共有していけば、少しずつでも学力アップにつながる良い道筋ができるのかなと思いました。

○吉田市長　ありがとうございます。石渡委員どうですか。

○石渡委員　私もこの３日間特に感じたことは、今までの学習状況調査はその学年ということだけだったんですけれども、総合的な学校の状況ということを先生方が管理職中心にとらえて、理解できたということがよくわかったんじゃないかと思います。それから特に顕著だったのが応用ということで、資料に出ていますけど、その辺のところは今後の課題だなって、どの学校も出てまいりました。そのなかでも学習改善に向けてという形で授業のふりかえりを含めて、学校研究というものを通しながら授業をどう作ったら良いかということで、歩みをまた変更しながら少しずつ取り組んでいるのかなっていうのを感じてきました。

私なんかも現場にいたことがある経験者なんですけれど、学習の中でやっぱりいろんな児童・生徒がいて、先生方も１時間の中でいろんなことを習熟させたいときに、時間がどうしても足りないっていうのがあるんですけども、今回教育委員会がAI的なものを入れていただいて、タブレットを全員が使えるという状況を作っていただいて、それを上手に子どもたちが使って習熟する姿が見られたのは、本当にそういう意味では先に向かって学力アップがされていくのかなというのを実感してきました。

以上です。

○吉田市長　村山委員どうですか。

○村山委員　廣瀬委員、石渡委員と同じようにこの調査の結果を得て、まだ１年目ですので効果が出るというのは先の話になるかとは思うんですけれども、さっそく教育現場ではその効果が出始めているというのがこの３日間の学校訪問の中で感じてきました。夏休みの時間を使って先生たちがどうしたら教育改善できるか、授業改善できるかというのを話し合って、早速にその効果が出始めているなというふうに感じています。ただ、子どもたちにその効果が出始め

るのはまたその次の年になりますでしょうし、この調査や試みというのが保護者と子どもたちにどこまで伝わるか、またどうやって保護者が利用するかというところが今後大きな課題になるんじゃないかなと思います。

先ほどもちょっとお話させてもらったんですけども、三浦市全体として子育てしやすいまち、こういう教育に力を入れているというところを市全体でアピールしていただけると保護者、子どもたちも意欲が増すんじゃないかと思いますし、学校と家庭との連携がより進むんじゃないかとそう感じています。

○吉田市長　学校を周って、みうらっ子学力向上プロジェクトをスタートさせて、子どもたちへの反応ってまだ出ないかもしれないですけど、教員の皆さんの取組の姿勢というのかな、やる気が出ているというか実態としてそういうのは感じますか。

日頃から教育委員の皆さんは教員と接することもないかと思いますけど、なにか感じますか。

○石渡委員　ベーシックな部分としてね、学校の雰囲気として先生方と子どもとすれ違うようなことはあまり感じないし、そういう面ではより一層今まで以上に落ち着いて学習に取り組んでいる姿が見られたなということと、それから教室とか掲示物などを見ても、しっかり先生方が子どもたちに向き合って取り組んでいるんだというのを感じました。特に授業の中で先生方が工夫しているというのがそういう掲示物からも感じられたという面ではより具体的に進んでいるのかなと思います。

ただ、負の面としてね、だいぶ小規模化してきたという中で、一学年一学級ということで子どもの数が多くなってしまい、本来、私的には20人前後の中で授業が成立していけばいいんだけど、ある学校ではそれが30人を超えて、そこに中学なんかも40人近いといっぱいで本当になんとかならないのかなと。これが市の問題だけではなくて文部科学省の問題もあると思うんですけど、単一級が多いという中でもやっぱり先生方は大変苦労しながら、悩みながらやられてるのかなというのを感じました。

○吉田市長　川名委員、新任教育委員として感じることはありますか。

○川名委員　10月１日からPTA保護者代表として教育委員をさせていただいておりますが、まずは例年どおりの全国学力・学習状況調査ですけども、今年度はそれに加えて三浦市の学力調査実施ということで小学校２年生から５年生、そして中学校１、２年生を対象に実施いただいたことに保護者を代表して感謝申し上げます。あくまでもみうらっ子学力アッププロジェクトについては通常の定期テストであったり、単元テストとはまったく違う意味合いで実施されているんだと実感をさせていただいております。そんな中でやはり教員同士が自分の持っているクラス、単学級が多い状況でどのように教育していったらいいのか、そしてその子どもたちが次の学年になったときに、どのように先生にバトンタッチをしていけばいいのかというのが難しく、どうしても自分なりの教育になってしまいがちな部分があろうかと思うんですね。ただ、今回のみうらっ子学力アッププロジェクトで出てきた課題をまずは担任の先生がこの学年はどのような状況下にあるのか、自ら分析をされておりました。そして、その分析をされたも

のを学校内での教職員が共有をしているというのもとても強く感じまして、そうすることによって、次の学年に上がったときに先生のバトンタッチがしやすい、その学校全体ででき上がったものを管理職の先生方が数年後を見据えた学力プロジェクト、学力ビジョンを掲げてらっしゃる学校がありましたので、学校教育として、単年度で終わらせない継続事業として本当に素晴らしいものと思っております。

AI タブレットを使った中でも、やっぱり家庭学習っていうのが難しく、私も保護者として子どもに勉強しなさいといったときに、勉強させる教材っていうのもわかりにくい、かといって学校に宿題を出してくださいって保護者がいうんですけど、宿題はあくまでも学校から言われたものをやるものなので自主学習につながらないっていう状況で、今 AI タブレットの中でミライシードというのを教育委員会含めて作っていただいたんですね。タブレットを家庭に持ち運んでやりましょうよ、やっていいですよって学校も増えていますので、児童・生徒もまず何をしたらいいのかとか、自学もやっていきましょうって中学もやっていますけど、なかなか自分で自分のやっていることも難しくなってきて、まずはタブレット端末で家庭に持ち帰ってやることによって自分がなにをやらなきゃいけないのかなっていうのを子どもたちが見えてくると思います。家庭教育との連携もとれる一つのツールとして、ぜひ今後も続けていただきたいと保護者の意見も出ています。

みうらっ子学力アッププロジェクトについて、小学校２年生から５年生に至っては、点数見てもなんとも思わないんですよ。良いとか悪いとかいっても、点数取れなくても頑張ろうよってことがこの点数だといえる。これが来年に少しでも点数がよくなっていると保護者もやればできる、それならやっていこうよってなると思うんですよ。やればできるという意欲につなげるためにもぜひ継続をお願いいたします。

○吉田市長　この学力調査というのは年に１回ですが、それから日常のテストでもあるんですよね。

○増田学校教育課長　学習状況の定着を見るためにテストをするということはやっております。

○吉田市長　それで点数は担任の先生と学校の情報共有はするんでしょうけど、子どもたちには還元されないんですか。

○増田学校教育課長　テストについては、毎度毎度担任から回収をして、それについてできないことも伝えていくところであります。

○吉田市長　子どもにテスト用紙を返して、家に持って帰って親に見せることもあるということですか。

○増田学校教育課長　ございます。

○吉田市長　川名委員は日常のテストの答案用紙を子どもが持って帰ってきて、なにかコメントされたりしますか。

○川名委員　言います。

○吉田市長　答案用紙を見ない親もいるでしょうけれども、それでは困るから、学力向上の取組をやっていることを保護者の皆さんにも理解されるのはいいことですね。そうならないとダメかもしれないですね。

ほかにこの件で御意見などありませんか。

○村山委員　昨日、早速家庭でこの話をさせていただいたんですけど、子どもも家内も含めて話したんですが、成績については今回のことは調査なので、良い悪いはそれほど気にしなくてもいいと、ただ今回できなかったところは次にできるようになっているための努力はしろと、できなかったところをそのままにするのではなく、できるようにする次の一年にするようにドリルだけじゃなく家庭学習をするように心がけようというふうな話をさせてもらったんですけども、それが今回のこのプロジェクトのねらいなのかなと感じております。

○吉田市長　教員のオーバーワークになるということもいけないことでしょうけど、保護者の皆さんの協力を得ないとなかなか難しいですよね。だからそれをどうやって浸透していくかが課題だと思うんで教育長一言お願いいたします。

○及川教育長　今年度から取り組んだ学力アッププロジェクト、４月にやった調査、これは大きな意味があったなって、各学校周って校長、教頭と協議を通して感じました。まずそれぞれの学校の課題が明確になった。さきほど皆さんから出ましたけれども、課題が明確になったというのは取組の視点が明らかになって、先生全体で共有できるようになった。これが大きいなというふうに思っております。

ただですね、各学校見ていてもう少しと思うのは、先ほどの増田学校教育課長の説明の中にもあったんですけども、授業改善というのは一番大切なところなんですね。主体的、対話的な深い学びのある授業を作っていく、そのことができていくとこの調査結果も上がっていくというふうに思っています。それぞれの各学校が明確にした課題の対策、取組として、授業に直結するような形をもう少し意識してもらいたいなと思っておりますので、これが教育委員会のこれからの取組になっていきますので、学校への働きかけというかそういうことをしながら授業改善、さらに進んでいくようにしていきたいと思っています。

それと、AI ドリルのミライシードっていうんですけれども、子どもたちはかなり使いこなし始めたなと思います。タブレットを使いながら授業の中で、自分に合った問題をどんどん選んでやっている姿を見せてもらって、かなり使いこなしている。ミライシードをさらに有効に使いながらですね、自分に合った問題をやっていく、そのことによって得意なところを伸ばしながら不得意なところを克服するということを個々で取り組んでいけたらなと、先生は先ほどいった主体的、対話的な授業を作っていく、その中で子どもたちが自主的にドリルなどを活用しながら授業を深めていく、それに当たって家庭の協力を得ていく、こちらは家庭の協力を得

ていくための仕掛けといいますか、リーフレットを作って配りましたけれども、あれだけじゃなく、今後働きかけを進めていくということでこの事業さらに進めていくことができればと、結果につなげていくことができればと思っています。

○吉田市長　なにしろ結果を残してくれと教育委員会にいつも言っていますので、教育委員の皆さんもぜひよろしくお願いいたします。

ではこのみうらっ子学力アッププロジェクトについては、このくらいにしたいと思います。

続きまして、議事事項の⑵三浦市学校給食共同調理場更新に向けた考え方について事務局から説明をお願いします。

○武田学校給食課長　三浦市学校給食共同調理場更新に向けた考え方について、御説明いたします。

本市の学校給食は、三崎・南下浦、二つの学校給食共同調理場で調理し提供されております。両調理場ともに市内全校での完全給食提供開始以来稼働しており、建物本体は建築後約45年が経過し、その耐用年数は60年とされておりますので、更新を考えるべき時期が到来しております。

本日は、更新に向けた考え方について御協議いただき、お考えを確認させていただきます。今後はお示しいただいた考えをもとに学校給食共同調理場更新への取り組みを進めてまいりたいと考えております。更新に向けた考え方の詳しい内容は、担当特任主査より御説明いたします。

○吉田市長　はい、どうぞ。

○増井学校給食特任主査　お手元の資料に基づきまして説明させていただきたいと思います。

まず初めに学校給食共同調理場の現状でございます。本市の学校給食は、1962年（昭和37年）に初声小学校での給食提供から始まり、1980年（昭和55年）には、中学校を含む市内全校での主食、おかず、牛乳を提供する完全給食が実施されております。

当初は、三崎・南下浦・初声の３地区に共同調理場を配置しておりましたが、2009年（平成21年）に初声学校給食共同調理場を廃止いたしまして、現在の２場調理体制とするとともに、調理、食器の洗浄、配膳業務の民間委託を開始し現在に至っております。

三崎学校給食共同調理場は、1978年（昭和53年）に建設、翌年４月より開設されております。あと14年で耐用年数を経過する鉄骨造りの建物です。

三崎地区４校、初声地区２校の給食を調理しており、現在の調理数食数は1,460食です。２場体制となりました2009年時には約2,500食の調理を行っておりましたので、これまでの15年間に約1,000食の調理食数が減少しております。初声地区の学校給食共同調理場を統合した際に外壁、防水や内装の大規模改修を行っております。

現在の南下浦学校給食共同調理場は、移転により1979年（昭和53年）に建設、翌年４月より開設されております。あと15年で耐用年数を経過する鉄骨造りの建物です。

南下浦地区５校の給食を調理しており、現在の調理数食数は 911 食です。こちらも 2009 年時には約 1,400 食の調理を行っておりましたので、15 年間に約 500 食の調理食数が減少しております。

両調理場の建物は、建築年次は経過しておりますが、壁や柱といった建物の基本的な部分はしっかりとしており、使用に不安があるような状態ではございません。

しかしながら、両調理場ともに建物や設備全体の老朽化が進んでおり、使い続けるためには大規模な改修が必要な状況です。

次に学校給食共同調理場の課題でございます。

五つの課題又は取り組むべきと考える事柄がございます。

一つ目は老朽化への対応です。現状説明でお話ししたとおりの状況でございまして、現在は毎年の部分修繕により対応しておりますが、全面的な更新が必要だと考えております。

二つ目は災害への備えです。２場ともに昭和 56 年に改正された新耐震基準以前に建設された建物でございますので、新たに建設する場合には現基準に沿った建物となるわけですが、現在の建物を大規模改修し長寿命化を図る場合には耐震改修が必要です。また、調理場には大規模災害が発生した場合に、住民への食糧供給の拠点となる機能を有することが求められると考えます。

三つ目は設備の更新です。現在の調理は、平成 21 年に法に位置付けられた「学校衛生管理基準」に基づき、法制定以前に設置された調理設備を運用し行っております。現在でも法に基づいた調理を行っておりますが、施設の更新をする際には、設備自体を基準に基づいたものとし、より衛生環境の整った施設とすることが求められます。また、より衛生的で効率がよい調理設備を導入することにより、労働量や時間の短縮が期待できます。これは、委託費用の縮減にもつながると考えます。

四つ目は教育のための機能です。学校給食法には、「食育」の推進も学校給食の目標の一つであると定められています。残念ながら現調理場には備わっていない学習や試食などに利用できるスペースの整備が求められます。

五つ目は児童生徒数の減に対応した調理体制の確立です。今後も児童生徒の減少傾向は続くと見通しております。現状の施設を規模に見合ったものとし、今後の変化にも柔軟に対応できる施設設備を保有することが必要だと考えております。

次に現在、市として持っている計画の中の事柄です。学校調理場をこうすると決定した計画はございませんが、三浦市公共施設個別施設計画の中に、調理場については、２場を統合した効率的な運用が図られ、現在の衛生基準に準拠し、必要規模に適した施設を三崎学校給食共同調理場の増築改修や建て替えにより確保する検討が必要であると記載しております。

次に施設更新に要する費用です。他の自治体の建設事例や事業者からの情報により推計したものになりますが、新たに調理場を建設する場合、１日あたり 2,000 食を調理する能力を備えた規模の施設と仮定すると設計も含めて約 40 億円から 50 億円が必要とされております。この費用には、土地の取得費や造成費は含まれておりません。現在の調理場を解体する費用は、アスベスト資材を含む場合、１施設当たり２億円から３億円が必要です。両調理場の建設年次から推測するとほぼ確実にアスベスト資材が使用されていると思われます。事務経費は、約２千万円と見積もりました。計画策定などに専門的な知識が必要となるため委託料が発生するものです。

以上、御説明してまいりました現状、課題等に鑑みまして、学校給食共同調理場更新を検討する方針を五つ設定したいと考えております。

方針１は、三浦市学校給食の堅持、児童・生徒や市民からの評価が高い「三浦の学校給食」を将来にわたり提供することです。今後の三浦市の学校給食提供を考える上での根本だと考えております。そのためには、管理体制を維持し、給食づくりを市が継続することが基本と考えます。

給食事業の継続のためには、できる限り経費を節減する努力も必要と考えます。建設にあたっては、官民連携の手法などの活用を検討すること、適正な規模を見据えること、新たな土地を購入する経費などを節減するため、現在市が所有している土地から適地を選定することとしたい考えです。運営経費も調理・運搬・施設管理の一括委託や調理数が変化した場合に柔軟に対応できる体制や施設とするなどにより節減を図りたいと考えます。

この方針１が一番大切なことだと考えておりますので、現時点では、調理場を市内に有し提供することが基本であると考えておりますが、広域連携などにより近隣自治体と共同することでも、三浦市学校給食の堅持が可能であり、経費の縮減に大きな効果がある場合には、それも選択肢の一つであると考えております。

方針２は課題の解決、調理場の抱える課題を解決する施設・設備を整備することです。老朽化、災害への備え、設備の更新、教育のための機能、児童生徒数の減に対応した調理体制の確立といった課題を解決するためには、課題を解消する設計を施したう上で、建物の全面更新をしたいと考えます。

方針３、効率的な運営体制の確立は、調理食数・配送時間に鑑み調理場を統合することです。本市の今後の必要調理食数と運搬に要する時間に鑑みますと現状の２場体制を維持しなければならない理由はないと思っています。統合し運営することにより、より適切な安全管理と経費の節減ができるものと考えます。

方針４、その他の配慮は、環境への配慮、SDG’s教育を体現する施設とするため、再生可能エネルギー設備等の積極的導入を図ることです。公共が設置する施設の責務として、カーボンニュートラル等への対応は必須であるとの考えです。

最後に方針５、今後についてですが、御説明いたしました方針について、御協議いただき、いただいた御意見をもとに必要があれば修正を加えたものを基本とし、更新にかかる基本構想をまとめて、その後の更新計画の策定に着手してまいります。

説明は以上となります。

御協議をよろしくお願いいたします。

○吉田市長　この三浦市学校給食共同調理場の件につきましては、教育委員会だけの問題ではないので、市全体の公共施設の計画の中に織り込んでいますので、今回の総合教育会議では教育委員さんの御意見をいただいて今後参考にしていくという内容でありますので、これは方針決定というものではないので、一応原案は担当の学校給食課の方で作っていきますので、今後詳細な議論がされていくということで、今これからの課題としていくつか挙げてくれましたけど、それに基づいて計画をしていこうということになろうと思います。

今日、政策部長が同席しておりますけども、市全体のことでもありますので、政策部長も今回出席をさせていただいております。庁内では関係部局と教育委員会と一応すり合わせはさせていただいておりますので、今後具体的な計画に入っていく段階で、これは大きな投資になりますので、そういったことを踏まえて検討をしていくということになります。

更新に要する費用としては4、50億とかって書いてありますけど、これはちょっと過大な感じがしますけれども、いずれにしても具体的な方向性を今後示していく上では総合教育会議でも諮らせていただくということになりますのでよろしくお願いします。

まず、資料の３ページに調理場更新に臨む方針というのがあるじゃないですか。基本的に学校給食の堅持というのは第一なので、そこを崩すとかという話ではないので、学校給食をきちんとやっていこうというのはまずそれが第一ですから、それは御理解いただいて、今の日本全国で学校給食無償化の動きがあるので、三浦市も追随するというか決断をする時期が来ると思います。国の方でどのような手当てをしてくるかというのは一つ大きな課題なんですけど、小中学校の給食って万人が得るものなんですよ。いろいろ自治体ごとに格差があってはいけないと私は思っているんですよ、基本的にはね。三浦市もここ数年間コロナ禍でもありましたし、給食費、今年もそうですけど、あのコロナ禍の時には交付金を使って無料にしましたけど、今年は半額負担ということで、でも食材費も上がっていますので、既定の給食費というのは引き上げをさせてもらったんです。保護者に負担のないような対応というのはさせてもらうんですけど、給食費って食材の費用なんですね。作る建物だとか、人件費だとか、物件費だとかコストっていうのは反映されてないんですよ。ですから基本的には食材を無料にするというのが給食費の無償化なんですね。だからできないことはないと思っているんですけど、財源は大きく必要ですのでそこは今後検討していきますけど、いずれ日本全国同じような動きになると私は想像していますので、県内でもいくつか踏み込んでいるところがありますので、やっと中学校給食を始めたなんていう自治体もあるんですよ。だけどうちは昭和の時代から当たり前に小中学校給食ですので、やっと中学校給食を始めたなんていうところは、やはり新しい調理場を造っているんですよね。うちも建て替えなきゃいけないし、今２場あるのは一つにまとめた方がいいだろうっていう基本的な考え方もあるんで、そんな取組をさせていただくという今のところの考え方を皆さんにお知らせして、今後具体的に検討していこうと。これは庁内で練っていきますので、そういったことも報告しながら進めていきたいということです。

なにか御意見ありますか。

○村山委員　２か所あって、例えば１か所が壊れて、その壊れたところが受け持つ小学校や中学校の調理をサポートしたっていう事例は以前にありますか。

○増井学校給食特任主査　調理場自体が稼働できなくなるような大きな故障や事故とかそういったことは起こっておりません。個々の調理器具に不具合があったりして、応援体制を整えたとかそういうことはございます。

○村山委員　お互いサポートしあうというようなことで成り立っていれば二つ残していかないといけないということでしょうけども、そうでないのであれば一つにまとめるように進めていくというのがいいのではないかと思います。

○吉田市長　食数もありますのでね、そんな大きな規模ではないので。
他にどうですか。

○廣瀬委員　4、50 億円と聞いて驚いたところですが、この何年間も物価高騰ですべて上がっているのでこの十何年後に本当にこれでいけるのかっていう不安もあるのかなっていうところですけど、ただ三浦市の給食は本当に評判がよく、美味しく安全安心な給食だということで評価も高いので、ぜひとも自分たちに関わることなので長い目での計画になると思いますけどお願いしたいと思います。

○石渡委員　一つ安心したのは、やはり今後も学校給食を堅持するんだという、市長さん始め行政の方々に仕立てていただいてありがたいなって思います。私も元保護者として学校給食で子どもたちがお世話になって、本当に助かったなという部分を実感していますし、そんな中で学校教育に携わった一人として、給食というのは学校生活の中で子どもたちにとって本当になくてはならない大切なものだと感じております。
どちらかにまとめて、現存のものを維持してできないのかなと思いましたが、お話にあったように老朽化もあり、衛生管理の面でも厳しいという状況を考えてみれば、やはり今の法律にあったものを作っていただかなければ、安心して学校給食を任せられないのかなと思いました。
私が今、三浦市の給食で実感しているのは、ここ 10 年来で神奈川県内の自治体で中学が給食に踏み切っていくという状況にあって、昭和 50 年代に三浦市ではすでに小中学校で学校給食にしていただいて、児童・生徒の保護者にとっては本当にありがたいと実感できる学校給食のシステムだと思います。ぜひいろんな知恵を出しあって、いい方向に進めていただければと思います。

○川名委員　学校給食はもちろんお腹を満たすために必要な部分であり、保護者としてはお弁当をつくることもできるでしょうけれども、それに対して負担軽減をしていただいている給食という考え、子どもたちが食べるだけではなくて、自分で配膳もして、片づけるという作業が備わっている食育部分も含めて給食がある。そして、小学校の場合ですと１年生はなかなか配膳できないところは６年生が手伝ったりするんですね。その６年生も自分が学年長になったといういろんなものが混ざっている給食なので、市長から堅持するというお言葉もいただいているので、ぜひ長い目で御尽力いただければと思います。

○吉田市長　ありがとうございます。
施設が老朽化していますのであまりのんびりもしていられませんけど、そこは庁内できちんと検討していきたいと思いますので、これからもいろいろ御指導いただきたいと思います。
以上で議事は終了いたしますが、ほかに御意見等はありますか。
なければ、これで終了したいと思います。事務局にお返しいたします。

○鈴木教育部長　ありがとうございました。

本日予定していた内容はすべて終了いたしました。
以上を持ちまして、本日の総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

◇　午後４時 26 分　閉会　◇